



1階D展示室 //////////////////////////////////////

第
26
回

植田正治写真美術館

フォトコンテスト 入賞・入選作品展示

会期 令和7年11月5日(水)～12月10日(水) 入館料 無料

今回のコンテストでは、一般の部401点、18歳以下の部185点の作品応募がありました。
多数のご応募ありがとうございました。見事大賞を受賞された作品を紹介します。



〔一般の部〕大賞
「初風」金築 哲



〔18歳以下の部〕大賞
「吹雪に飛ぶ(3枚組のうちの1枚)」下條良菜

1階D展示室
写真展

第32回 伯耆町写真展

〔会期〕
令和7年 11月5日(水)～12月10日(水)

2・3階展示室

開館30周年記念企画展 植田正治 夢見るカメラ

植田正治がはじめてカメラを買ってもらったのは1928(昭和3)年、15歳の時です。シャッターを押せば、目の前の光景を瞬時にフィルムに焼き付けられる、魔法のような小箱に植田は感動と喜びを感じ、それから70年以上もの間、魅了され続けたのです。植田にとっては、憧れと幸せをもたらしてくれる「夢見るカメラ」だったのでしょう。

1930年、植田は美術学校への進学をあきらめるかわりに念願のカメラ、テッサーフ4.5付ピコレット(ベスト判)を親に買ってもらい、ますます写真に熱中していきます。19歳の時に、営業写真館を開業後は好きなカメラを買えるようになり、様々なカメラを手にながら写真を楽しみました。戦後は日本のカメラ産業の発展で次々と発売される国産新機種を試し、晩年には携帯性や高性能なカメラの登場に胸躍らせ、その利便性や特性をいち早く体験するなど、植田の旺盛な好奇心はカメラそのものにも向けられました。植田がカメラについて語るとき、カメラと自分との関わり、写真に対する姿勢など、実践的な体験を通して語ることも少なくありません。新しいカメラやレンズへのこだわりは、それらが単なる道具ではなく、撮影の楽しさを植田にもたらしてくれる良きパートナーだった証なのでしょう。

今回の展示では、植田が愛用したカメラそのものや実際に使用したものと同機種のカメラ、そしてそのカメラによって撮影された作品の数々を展示しながら、植田が見た「夢」、いわば「写真表現の無限の可能性」を浮き彫りにします。



さらば夏の日 1972年

問い合わせ先

伯耆町立植田正治写真美術館 TEL:0859-39-8000

■メール: bijyutsukan@houki-town.jp ■ホームページ: <https://www.houki-town.jp/ueda/>
■開館時間/10:00～17:00(最終入館は16:30) ■休館日/毎週火曜日(祝日の場合は翌日)

町民の方は入館無料です。※ご来館の際は広報ほうき10月号無料招待券または免許証など住所のわかるものを提示してください。

大山ますみず高原 天空リフト ～空中散歩で絶景広がる感動パノラマへ～



町民割引券

お一人様 500円(大人・小人共通)

※通常 大人1,500円・小人1,000円

※本券1枚で5名様までご利用いただけます。

有効期限: 令和7年11月24日まで

大山ますみず高原天空リフト
西伯郡伯耆町大内柳水高原1069-50
Tel0859-52-2228

